

関東学院大学

職員の業務継続性向上やデータ保護、生産性向上をキーワードにシンクライアント化を
決断した関東学院大学。データセンターハウジング・専用線・仮想デスクトップ環境の
サービス利用を選択し、課題解決を実現している。



目的

- 大震災時でも業務継続・データ保護ができるインフラの整備
- PCの場所にとらわれない、生産性の高いシステムの実現
- 人事異動時のデータ移行や設定変更等の運用管理負荷軽減

アプローチ

- 有事の際でも継続したいシステムのみを厳選してデータセンターへ移行
- データセンターへのハウジング+専用線+仮想デスクトップ環境をサービス利用
- パフォーマンスとコストメリットが決め手となりHP t510 Thin Client (HP ThinPro)を採用

導入の効果

- 有事の際でも事業継続できる基盤の整備が実現
- 管理対象がシンクライアントだけとなり、運用管理工数が大幅削減
- 人事異動時のデータ移行作業がなくなり、負担軽減

1884年創立、キリスト教を建学の精神とする、伝統と歴史ある関東学院大学。10学部13学科11コースからなる総合大学であり、横浜を中心に各キャンパスで、約12,000名の学生が学んでいる。以前からデータ保全性や事業継続性について対策を検討していたが、本格的なきっかけになったのが東日本大震災だった。実際の被害はなかったものの、どんな状況であってもデータを守り、学生の安否確認ができ、最低限の業務を継続するためには、当時のインフラでは不十分であった。検討を重ねた結果、たどり着いた結論がデータセンターへのデスクトップ環境の移行+シンクライアントだった。2014年10月、従来導入していた機器のリースアップに合わせ、約500台のHPシンクライアントが稼働を開始。データセンターへのハウジング、専用線、仮想デスクトップ環境をサービスとして提供してもらうことで、運用管理負荷軽減だけでなく、生産性向上や事業継続性向上を実現している。

関東学院大学



多くの課題を抱える 事務職員用端末

関東学院大学は、横浜山手に1884年（明治17年）に創立された横浜バプテスト神学校を源流とする歴史と伝統のある大学。2015年4月には社会学部、国際文化学部、教育学部、栄養学部を開設し、10学部13学科11コースからなる総合大学として、横浜を中心に各キャンパスで、約12,000名の学生が学んでいる。また、学生たちに「社会と人の幸福に貢献する人」を目指してほしいという思いから、カリキュラムの充実のもと、キャリアサポート、産学連携、留学制度など、学生1人ひとりの可能性を伸ばす機会も豊富に提供している。多くの学生が学ぶ関東学院大学を支える事務職員の端末は、通常のPCを使用していたが、情報科学センター運用課での管理負荷は非常に大きかった。データ保全、業務継続性、生産性向上、セキュリティなど、事務職員用端末は多くの課題を抱えていた。また、人事異動の際、旧PCでデータをバックアップし、新PCでリストアする作業を行う必要があり、対応工数が負担になっていることも課題となっていた。

事務職員用端末の刷新を進める大きなきっかけになったのは東日本大震災だった。実際の被害はなかったものの、「データが守れる環境が整っていない」、「学生の安否確認ができるシステムの信頼度が低い」、「事務職員が最低限の業務継続を行える環境が整っていない」など、課題が浮き彫りになった。具体的に対策を進めるため、2013年夏からクライアント環境刷新に向けた検討が始まった。

必要な環境を必要なだけ 利用できるサービスを選択

「実はシンクライアント化はもっと以前から検討していました」と小糸氏。以前からシンクライアント化における効果は認識していたが、2010年頃は時期尚早と見送った経緯があった。今回はシンクライアントの実績も増え、DaaSなどのサービス提供も浸透してきたことから、導入に踏み切ったという。

課題であるデータ保全、業務継続を実現するためには、500台以上のクライアント仮想化環境と一部の重要なシステムをデータセンターへ移行する必要がある。費用面での課題があったが、採用したのはデータセンターへのハウジング、専用線、仮想デスクトップ環境をすべてまとめてサービスとして提供してもらうという画期的な提案だった。

「サービス提供で必要な分だけ利用できるのはコスト面でも効率的。また運用も任せられるので情報科学センター運用課で管理するのはシンクライアント端末だけ。これは本当に楽になりました。」と荒井氏。

シンクライアントのセットアップに 「HP Device Manager」が大活躍

シンクライアント端末の選定時は複数機種を用意し、実際に負荷をかけながら検証した。パフォーマンスと同時に、管理面も検討。十分なパフォーマンスと、シンプルな管理を実現するHP t510 Thin Client ThinProモデルを選択した。



関東学院大学
情報科学センター運用課
課長
小糸 達夫 氏



関東学院大学
情報科学センター運用課
荒井 修二 氏



関東学院大学
情報科学センター運用課
中島 佑介 氏



HP を選択した理由はそれだけではない。HP シンククライアントで無償で使用できる「HP Device Manager」は魅力的だった。「無償でここまで機能があれば十分。実際に使ってみたくと思った。」と中島氏。その期待通り、シンククライアントのセットアップ時には HP Device Manager が大活躍、セットアップ時間を大幅に短縮し、負荷を軽減した。

シンククライアントが もたらした多くの導入効果

大規模災害時のデータ保全や業務継続性については、効果測定は難しいが、運用管理面では早くも効果を実感している。「HP Device Manager」は運用開始後の設定変更でも活用。今後の運用でも活用していくつもりだ。作業時間だけでなく、作業日程の調整や進捗管理にかかる時間・労力も省くことができ、特に業務に支障を与えず変更を適用できるメリットが大きいと考えている。

課題で上がっていた人事異動時のデータバックアップ、リストア作業は不要となり、異動先の端末を使うだけ。これから迎える2015年春の人事異動時は今までのような苦労は必要ない。まだほとんどシンククライアント端末の故障は見られないが、故障した場合も同様に、データバックアップ、リストア作業は不要。シンククライアントのセットアップには HP Device Manager が活用できる上、セットアップ済みの端末と故障した端末を交換するだけで作業が終了するため、ほとんど工数がかからない。以前の通常の PC は設定が多く、かなりの時間と手間

がかかっていたようだ。

また、生産性向上にも効果が出始めている。以前は自分の PC の場所ではしか仕事ができなかったが、他の人の席や、他の建屋、他のキャンパスでもログインすれば自分の環境が使用できる。キャンパス間を移動することも多いため、職員の業務効率是非常によくなった。

今後の展開は学生向けサービスも視野に入れ検討中

将来的には自宅や外出先でも自分の環境にアクセスして使用できるようにしたいという構想を持っている。育児休暇や在宅勤務、復職時の支援に活用など、事務職員のワークスタイル変革も実現可能な環境が整った。人事や制度の問題があり、すぐに実現できるわけではないが、特定部門など部分的に活用していきたい意向だ。

学生向けサービスの展開も検討している。ライセンスの関係上、校内でしか使用できない特殊なアプリケーションなどを自宅からでもリモートで使えるようにし、自宅で課題製作が進められるようにしてあげたいと考えている。実現すれば学生にとって非常に効率的で有意義なシステムになるだろう。また、シンククライアントは管理がほぼ不要というメリットを生かし、小規模な自習スペース等に置いて自由に使える端末としても活用できるのではないかと考えているようだ。

未来を担う学生が生き生きと学ぶ教育の場、これからも HP シンククライアントが支えていく。



HP t510 Thin Client (HP ThinPro)



関東学院大学概要

所在地

(本部) 横浜・金沢八景キャンパス
神奈川県横浜市金沢区六浦東1-50-1

創立

1884年(明治17年)

代表者

学長 規矩大義(きく・ひろよし)

<http://univ.kanto-gakuin.ac.jp/>

お問い合わせはカスタマー・インフォメーションセンターへ

03-5749-8343 月～金 9:00～19:00 土 10:00～17:00(日、祝祭日、年末年始および5/1を除く)

HP のシンククライアント製品に関する情報は <http://www.hp.com/jp/thinclient>

本ページに記載されている情報は取材時におけるものであり、閲覧される時点で変更されている可能性があります。予めご了承下さい。

本書に含まれる技術情報は、予告なく変更されることがあります。

記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

記載事項は2015年3月現在のものです。

© Copyright 2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

